

10年経ったら **取り替える**

その理由は…

New

Old



なぜ住宅用火災警報器を
取り替えるのでしょうか？

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の劣化や電池切れなどで火事を感じなくなることがあるため、交換が必要です。

交換の目安は、住宅用火災警報器を設置してから10年です。住宅用火災警報器を設置したときに記入した「設置年月」、または本体に記載されている「製造年」で確認してください。



連動型の住宅用火災警報器が推奨されていますが、良い点は何ですか？

連動型の住宅用火災警報器が火事を感じると、他の場所に設置されている連動型の住宅用火災警報器も連動して警報音を発します。

- 無人の場所でも出火した場合でも、他の場所で警報音を発するため、火事の早期覚知に効果的です。
- おじいちゃん、おばあちゃんの部屋で起きた火事に、他の場所にいるご家族がいち早く気づくことができます。
- 設置された場所すべてで警報音が鳴るため、ご近所の方や道路上の通行人等が火事に気づく機会が増え、早期通報につながります。

